The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	センターの25年の歩み
Author(s)	出口, 弘
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1994, 93, p. 10-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66065
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

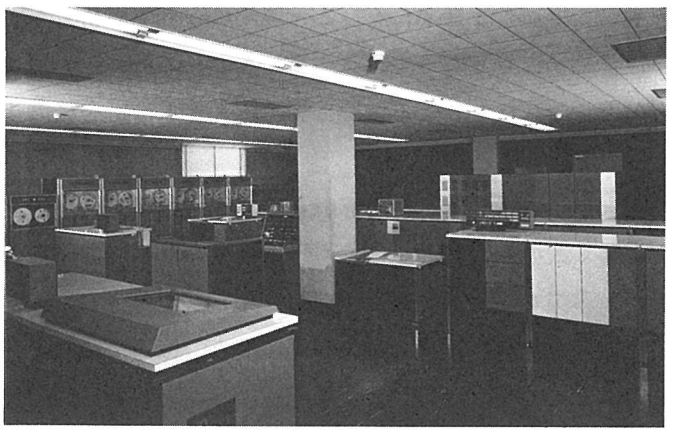
The University of Osaka

センターの２５年の歩み

大阪大学大型計算機センター研究開発部
出　口　　弘
deguchi@center.osaka-u.ac.jp

常に時代の最先端の計算機資源とサービスを提供してきたセンターの歴史を、導入されてきた計算機システムの写真[1] と共に振り返ってみたい。

昭和３７年　４月　大阪大学計算機センター発足（予算化）
昭和３８年　５月　日本学術会議が「全国共同利用大型計算機センターの設置」を政府に勧告
昭和４１年１０月　計算センター建物豊中地区に建設
（２階建、延面積７３５m^2）
１１月　ＮＥＡＣ２２００モデル５００搬入

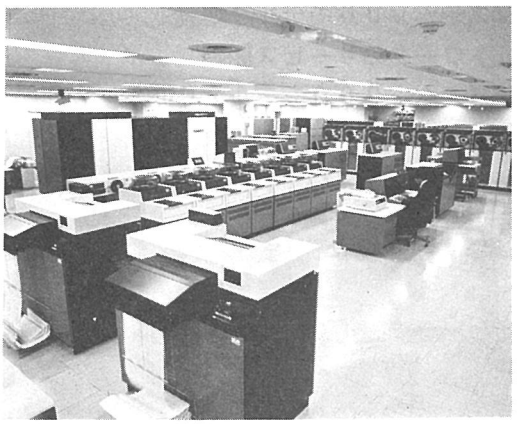


昭和４２年　４月　バッチサービス開始
９月　ＮＥＡＣ２２００モデル２００、通信制御装置及び周辺機器搬入
１１月　東野田地区（工学部）、中之島地区（医学部附属病院）にデータ・ステーションを設置
昭和４３年　１月　阪大ＭＡＣ（ＴＳＳ）システムサービス開始
８月　大型計算機センター共同利用準備委員会設立
１０月　全国共同利用サービス開始（暫定措置）
昭和４４年　４月　大阪大学大型計算機センター設置
８月　高木修二教授初代センター長に就任
昭和４５年　９月　ＮＥＡＣ２２００モデル５００増設
昭和４７年　３月　大型計算機センター建物を吹田地区に建設
（地下１階、地上３階、延面積３,６０４m^2）
ＮＥＡＣ２２００モデル７００（１号機）
ＮＥＡＣ２２００モデル５００
ＮＥＡＣ２２００モデル５００、２セット豊中地区より移設
自動製図装置（ドラフター）搬入
４月　大型計算機センター吹田地区に移転、業務開始
吹田地区データ・ステーションを豊中地区に移設
昭和４８年　９月　利用者ファイル（バッチ用）サービス開始

---

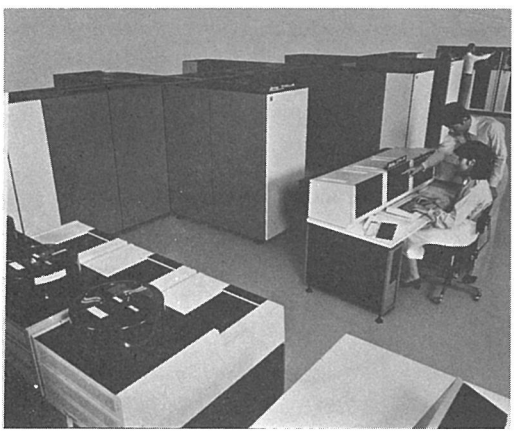
[1] 協力：日本電気（株）

昭和４９年　８月　　ＮＥＡＣ２２００モデル７００（２号機）搬入
　　９月　　オープンバッチサービス、利用者入力サービス開始
昭和５０年　３月　　リモートバッチサービス開始（阪大ＲＪＥ手順）
　　８月　　ＮＥＡＣ２２００モデル７００（２号機）メモリ増設
　　１２月　　クロスコール機構によるＮＥＡＣ２２００モデル７００間のファイル共有開始
昭和５１年　３月　　ＮＥＡＣ２２００モデル７００（１号機）夜間省力化運転サービス開始
　　９月　　ＡＣＯＳシステム７００搬入



　　１０月　　同システムによるＴＳＳサービス開始、公衆網サービス開始
昭和５２年１２月　　ＡＣＯＳシステム８００モデル１搬入

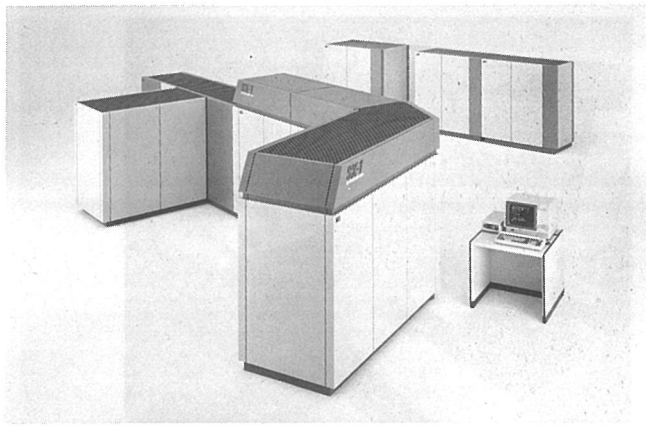
昭和５３年　１月　　同システムによるバッチ及びＴＳＳサービス開始
　　３月　　同システムをモデル２に強化
　　１０月　　ＡＣＯＳシステム９００モデル２搬入



　　１１月　　たんぱく質データベース（ＰＲＯＴＥＩＮ－ＤＢ）のサービス開始

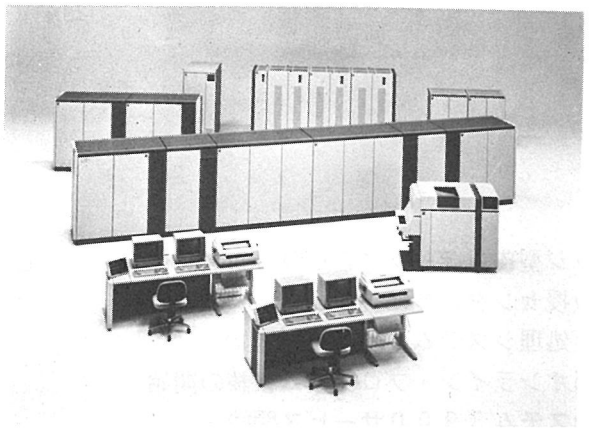
昭和５４年　４月　三次元カラーグラフィックディスプレイ、手書きＯＣＲ、フロッピィディスク、ディジタルプロッタ、サービス開始
　　５月　大阪大学大型計算機センター創立１０周年記念式典
　　８月　関谷全教授センター長に就任
昭和５５年　３月　入出力棟増築（地上２階、延面積３２３m^2）
　　４月　地球学データベース（ＧＥＯＤＡＳ）のサービス開始
　　計算機利用相談データベース（ＣＯＮＳＡＬＴＡＮＴ）のサービス開始
　　８月　ＡＣＯＳシステム９００モデル２増設
昭和５６年１０月　大学間ネットワークのサービス開始
　　１２月　ＡＣＯＳシステム１０００モデル２０搬入

　　極四極共鳴スペクトルデータベース（ＮＱＲ）のサービス開始
昭和５７年　５月　ＡＣＯＳシステム１０００モデル２０増設
　　９月　日本科学映像データベース（ＪＳＲ）のサービス開始
　　音声データベース（ＳＰＥＥＣＨ－ＤＢ）のサービス開始
　　１０月　ＡＣＯＳシステム１０００によるＭＤＦサービス開始
昭和５８年　８月　小泉光惠教授センター長に就任
昭和６０年　１月　高速フォートランプロセッサ（ＨＦＰ）サービス開始
　　３月　ポートセレクタサービス開始
　　９月　学生実態調査のデータベース（ＹＡＲＵＫＩ）のサービス開始
　　１０月　生物分野文献データベース（ＢＩＯＳＩＳ）サービス開始
昭和６１年　２月　第２種パケット交換のサービス開始
　　４月　共通利用番号制実施
　　６月　スーパーコンピュータＳＸ－１サービス開始

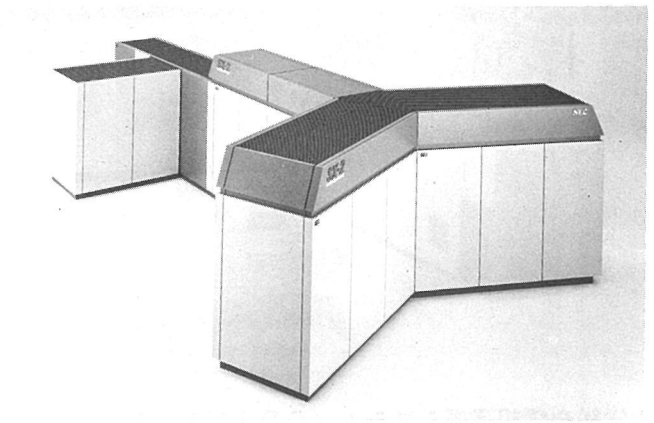


　　１２月　大阪大学学術雑誌データベース（ＯＵＬＪ）のサービス開始

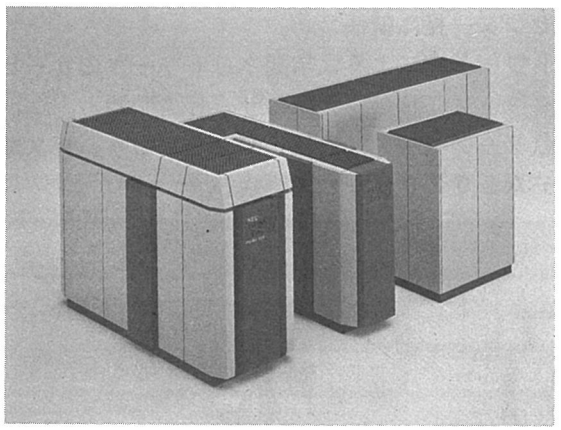
昭和６２年　４月　　山田朝治教授センター長に就任
　　学術情報ネットワーク網による大学間ネットワークのサービス開始
　　電気化学データベース（ＥＣＤＢ）のサービス開始
　　１０月　　日本の化学文献データベース（ＣＨＥＭ－Ｊ）のサービス開始
　　１１月　　ＡＣＯＳシステム２０２０サービス開始



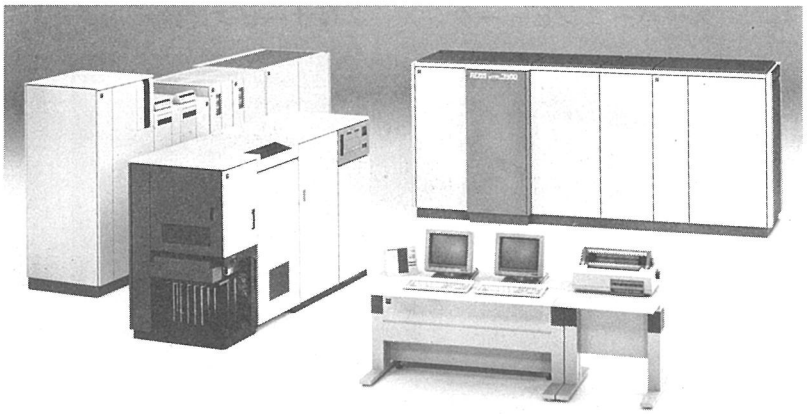
昭和６３年　１月　　スーパーコンピュータＳＸ－２Ｎサービス開始



平成　２年　４月　　松田治和教授センター長に就任
　　５月　　磁気テープ専用端末のサービス開始
平成　３年　４月　　大学間電子メール（ＭＨＳ）のサービス開始
　　交換回線用Ｖ.３２（３００～９６００ｂｐｓ）モデムのサービス開始
　　ターミナルサーバ（ＡＮＮＥＸⅡ）での交換回線（外線・内線）サービス開始
　　５月　　ＩＮＳネット６４によるＴＳＳサービス開始
　　カット紙ＮＩＰのサービス開始
　　ＩＭＳＬライブラリ（ＳＸ用）のサービス開始
　　７月　　図形処理システムＧＫＳ（ＡＣＯＳ－６用）のサービス開始
　　８月　　日本語ＴｅＸ（ＡＣＯＳ－６用）のサービス開始
　　１２月　　ワークステーション（ＩＲＩＳ）のサービス開始
平成　４年　５月　　蛋白質および核酸データベース（ＦＲＯＧ）のサービス開始
　　９月　　Ｋｅｒｍｉｔ（ＡＣＯＳ用ファイル転送）のサービス開始
　　１０月　　半経験的分子軌道法プログラムＭＯＰＡＣ（Ｖｅｒ．６.０２）および関連プログラムＧＬＣＡＯのサービス開始
　　１２月　　種子植物分類学文献データベース（ＴＡＸＡ）のサービス開始
　　企業情報データベース（ＫＩＧＹＯ）のサービス開始
平成　５年　２月　　スーパーコンピュータＳＸ－３Ｒのサービス開始



カートリッジ型磁気テープ（ＡＣＯＳシステム）のサービス開始
4月　寺田浩詔教授センター長に就任
5月　新スプール処理システムのサービス開始
9月　外国語担当オンライン・プログラム相談の開始
平成　6年　1月　ＡＣＯＳシステム３９００サービス開始



5月　大阪大学総合情報通信システム（ＯＤＩＮＳ）完成披露、大型計算機センター創立２５周年記念式典

表１にシステム構成の変遷を示す。そして、図１にグラフにしてみた。

表１　システム構成の変遷

期　　間	機　　種	演算処理能力	主記憶容量	ディスク容量
昭和４１年１１月 ～昭和４９年　７月	NEAC2200/500 &NEAC2200/200	0.22 MIPS	524 KC & 65 KC	135.6 MB
昭和４５年１０月 ～昭和４９年　７月	NEAC2200/500	0.22 MIPS	393 KC	19.6 MB
昭和４７年　２月 ～昭和４９年　７月	NEAC2200/500	0.22 MIPS	524 KC	29.4 MB
昭和４７年　３月 ～昭和５２年１２月	NEAC2200/700 （×２）	1.2 MIPS	1.048 MC	503.2 MB
昭和５１年１０月 ～昭和５３年　５月	ACOS700	1.1 MIPS	1 MB	300 MB

期　　間	機　　種	演算処理能力	主記憶容量	ディスク容量
昭和５３年　１月 ～昭和５３年１１月	ACOS800	2.0 MIPS	4 MB	2.4 GB
昭和５３年１１月 ～昭和５７年　４月	ACOS900	3.4 MIPS	8 MB	6.2 GB
昭和５７年　３月 ～昭和６２年１０月	ACOS1000	15 MIPS	80 MB	36.56 GB
昭和５９年１２月 ～昭和６１年　３月	HFP	117 MFLOPS	32 MB	7.8 GB
昭和６１年　４月 ～昭和６２年１２月	SX-1	570 MFLOPS	192 MB	10.4 GB
昭和６２年１１月 ～平成　５年１２月	ACOS2000	47 MIPS	192 MB	84.8 GB
昭和６３年　１月 ～平成　４年１２月	SX-2N	1.14 GFLOPS	256 MB	31.8 GB
平成　５年　１月 ～	SX-3/14R	6.4 GFLOPS	1 GB	102 GB
平成　６年　１月 ～	ACOS3900	110 MIPS	256 MB	147.3 GB

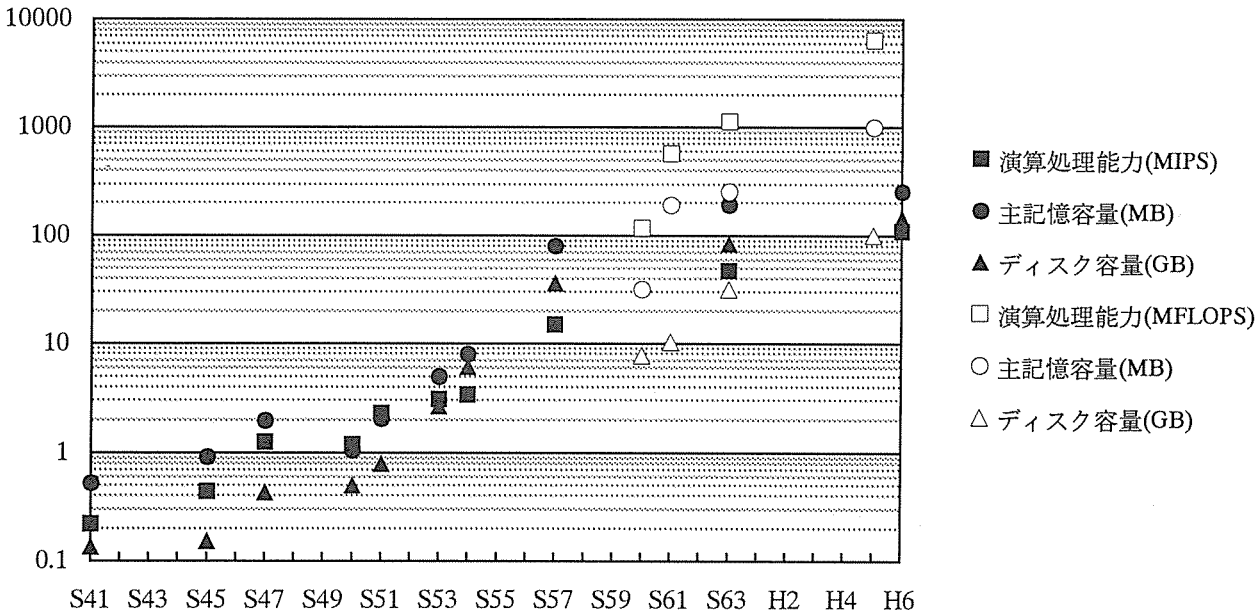


図１　システム構成の変遷

およそセンターにしか計算機がなかった設立当時から、ＷＳやＰＣが研究者の手近にある近年まで、メインフレームの時代、スーパーコンピュータの時代と経て来たような感がある。さて次はどんな時代になるのでしょうか？世間では超並列計算機という声も聞こえてくるようですが、計算機資源は当然としてサービスもより充実させて行く必要があると思います。利用者の皆様のご意見、ご希望など遠慮無くお聞かせ下さい。